

## 令和5年度最適化活動の目標の設定等

都道府県名： 長野県  
 農業委員会名： 小布施町農業委員会

## I 農業委員会の状況(令和5年4月1日現在)

## 1 農業委員会の現在の体制

任命・委嘱年月日 令和3年5月13日

	農業委員	
	定数	実数
農業委員数	9	9
認定農業者	—	5
認定農業者に準ずる者	—	1
女性	—	2
40代以下	—	0
中立委員	—	1

任期満了年月日 令和6年5月12日

	定数	実数	担当区域数
農地利用最適化推進委員	6	6	6

## 2 農家・農地等の概要

	経営体数
総農家数	758
農業経営体数	614

※ 直近の「農林業センサス」又は「農業構造動態調査」に基づいて記入

	農業者数(人)
基幹的農業従事者数	971
女性	464
40代以下	102

※ 直近の「農林業センサス」又は「農業構造動態調査」に基づいて記入

	経営体数(経営体)
認定農業者	83
基本構想水準到達者	151
認定新規就農者	9
農業参入法人	0
集落営農経営	0
特定農業団体	0
集落営農組織	0

※農業委員会調べ

単位:ha

	田	畑			計
		普通畑	樹園地	牧草畑	
耕地面積	157	631	—	—	788

※ 直近の「耕地及び作付面積統計」に基づいて記入

## II 最適化活動の目標

### 1 最適化活動の成果目標

#### (1) 農地の集積

##### ① 現状及び課題

現状	管内の農地面積(A)		これまでの集積面積(B)		集積率(B)／(A)	
	788	ha	293	ha	37.2	%
課題	農業従事者の減少と高齢化等による不耕作地や遊休農地の増加に加え、各農家の耕作地の分散等が、農地の維持・確保・担い手への集積を進めるのに課題となっている。耕作地が分散化し作業効率が低下している地域においては、特に、担い手農家の農地の集約を進める必要がある。					

※1 農地面積は、直近の「耕地及び作付面積統計」における耕地面積を記入

※2 「農地の集積」は、経営局長通知の別表1に掲げる者への農地の集積をいう

※3 「集積面積」は、局長通知別表1に掲げる者へ集積された農地の面積をいう(以下同じ。)

##### ② 目標

農地の集積の目標年度	10	年度	集積率	60	%
今年度の新規集積面積	30	ha	農地面積(C)	788	ha
今年度末の集積面積(累計)(D)	323	ha	(目標)今年度末の集積率 (E)=(D)／(C)	41.0	%

※ 農地の集積の目標年度及び農地集積率には、設定した目標の根拠とした目標の目標年度及び当該目標年度における農地集積率を記入

#### (2) 遊休農地の解消

##### ① 現状及び課題

現状	直近の利用状況調査により判明した遊休農地の状況		
	1号遊休農地面積	うち緑区分の遊休農地面積	うち黄区分の遊休農地面積
	12	10	2
	ha	ha	ha
課題	農業従事者の高齢化や後継者不足等による労力不足は慢性的課題となっており、毎年新たな遊休農地が発生している。啓発等によりいったん解消しても、時間がたつと再び遊休化してしまう農地も多い。		

##### ② 目標

###### ア 既存遊休農地の解消

###### a 緑区分の遊休農地の解消

令和3年度の利用状況調査における緑区分の遊休農地面積	8	ha
緑区分の遊休農地の解消目標面積	2	ha

※ 緑区分の遊休農地の解消目標は、令和3年度の利用状況調査における緑区分の遊休農地面積の5分の1の面積を記入

###### b 黄区分の遊休農地の解消

令和3年度の利用状況調査における黄区分の遊休農地	2	ha
--------------------------	---	----

黄区分の遊休農地の解消のための工程表の策定方針	町単独事業の荒廃農地再生対策事業の活用を促しながら、農地の出し手と受け手の意向を踏まえて調整を行い、できる限り解消されるよう図る。
-------------------------	---

###### イ 新規発生遊休農地の解消

前年度に新規発生した緑区分の遊休農地の解消目標面積	4	ha
---------------------------	---	----

#### (3) 新規参入の促進

##### ① 現状及び課題

現状	令和2年度新規参入者	令和3年度新規参入者	令和4年度新規参入者
	6	8	3
	経営体	経営体	経営体
	2.1	4.1	0.7
	ha	ha	ha
課題	法人、個人ともに耕作地が点在しがちである。新規就農者は良好な条件の圃場を確保しにくい。特に、ブドウ畑は空きがなく確保するのが困難で、町外での手配が増加している。		

※ 現状欄は、直近3年度の新規参入した経営体数と当該経営体の経営面積の合計の農地面積を記入

②目標

権利移動面積	令和元年度	令和2年度	令和3年度	平均
	20 ha	38 ha	18 ha	25 ha
新規参入者への貸付等について農地所有者の同意を得た上で公表する農地の面積			2.5 ha	

※1 過去3年間の権利移動面積は、農地法(昭和27年法律第229号)第3条第1項に基づく許可及び農業経営基盤強化促進法第19条に基づき公告された農用地利用集積計画による権利移動面積(有償所有権移転(所有権に基づいて耕作の事業に供していたものに限る。)及び賃借権の設定並びに利用権の設定に限る。)を記入

※2 目標面積は、過去3年度の権利移動面積の平均の1割以上を記入

2 最適化活動の活動目標

(1) 推進委員等が最適化活動を行う日数目標

1人当たりの活動日数	10 日/月	最適化活動を行う農業委員の人数	9 人
		農地利用最適化推進委員の人数	6 人

(2) 活動強化月間の設定目標

活動強化月間の設定回数	3 回
-------------	-----

取組時期	取組項目	強化月間の内容
11月	遊休農地の解消	農地の利用調整の取組強化月間として、担当地区の担い手を中心に意向等を調査する。
12-1月	農地の集積・集約	全ての作物の収穫を完了するのが12月なので、各農家が翌年の計画を練る前に、農地の集約と担い手への集積を働きかける月間とする。

※1 取組項目欄は、①農地の集積、②遊休農地の解消、③新規参入の促進のいずれかを記入

※2 強化月間の内容欄は、活動強化月間の具体的な取組の内容を記入

(3) 新規参入相談会への参加目標

新規参入相談会への参加回数	2 回
---------------	-----

開催時期	希望者がいる時	相談会名	長野地域オンライン就農相談会
参加者数	2名/回	開催場所	長野地域振興局
相談会の内容	小布施町で就農を希望する方向けの相談会に、委員が参加する。実際に相談されている内容を確認したり、質問があれば必要に応じて受け答える等、小布施町での就農を勧め、転入を促す。(2回以上あることを予測)		
開催時期	-	相談会名	-
参加者数	-	開催場所	-
相談会の内容	-		

※ 新規参入相談会への参加回数欄は、推進委員等が1名以上参加する相談会の数を記入(参加者数によらず、1名以上が参加する新規参入相談会ごとに1回とする)